
ラブ クリック

響心

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラブ クリック

【Nコード】

N8000A

【作者名】

響心

【あらすじ】

誰の特別にもなれなかった主人公はもう恋なんてしないと決意する。その決意は間違った方向へすすんでいくのだが…

ブローグ

初めての彼氏は、ずっと憧れ続けた先輩だった。

彼は実は遊び人で、私は処女だけ奪われた。

二人目の彼氏は、同じクラスの男の子。

気が付けば、親友と二股かけられた。

三人目の彼氏は、他校生。

毎日一緒にいないのをいいことに彼女とは名ばかりの性欲処理機：

どれも本気で恋してた。

なのに、私はいつも特別にはなれなかった。

だから思ってたんだ。

『もう、恋はしない。』

それは間違った方向に私を走らせた…

2：接触

『原田さあ〜ん。マチコ、かわいいカバンが欲しいんだあ〜』
あま〜い、あま〜い、声で言う。

『マチコちゃんが欲しいものならなんでも買ってあげるよ』
そしたら、たいていの物は手にはいる。

『ありがとあ〜！原田さん大好きい』

… 躰という代償を払えば。

葵 マチコ。 18歳。

デザインの専門学校に通う1年生。

『マチコ、そのカバン…また買ってもらったの!?!』

友達のキヨはすぐマチコのブランドの新作バックに気が付いた。

『自分で買ったの〜』

カバンのとつてに指を掛けふりふりと振り回しながらマチコは言った。

『マチコ、いい加減にしなよ。そんなことしてたらいつか痛い目にあうんだから…』

キヨは顔をしかめてそう言った。

『大丈夫〜！原田さんとは誠実なおつきあいなんだからあ〜』

そう、言うならば物物交換。

マチコが躰を提供して、相手はマチコの欲しいものを提供する。

マチコはその事に何ら抵抗はなかった。

下手に恋して心も体も相手に尽して捨てられてしまうなら、心と体を切り放して自分を商品化して適当にやっていく方がマチコにとっては断然楽な生き方だった。キヨはマチコのそういうところがまっ

たく理解できなかった。

そんな二人をしりめと同じ学科の坂口がカタカタとパソコンにむかっていた。坂口は毎日暇さえあればノートパソコンを開いている不思議な男の子だった。

キヨとの少し重苦しい空気に耐えかねたマチコはそのリズムカルなキーの音の方へと向かっていった。

『何してんの？メカぐち？』

マチコは坂口のパソコンを覗きこんだ。

カシャンっ！！

坂口はあわててパソコンを閉じた。

『えゝ！なんで隠すのおゝ？メカぐちのケチゝ』

マチコは頬を膨らませた。

『けちつて…それにそのメカぐちつてなんなんですか！？』

坂口はノートパソコンの画面を閉じる寸前のところで止めて顔をしかめてマチコの方を振り返った。

『だって、いつもパソコンいじってるでしょ？だからメカニクな坂口くんを略してメカぐちだよ』

マチコはにこおっと笑っていった。

坂口はあきれてなにも言葉を返さなかった。

『パソコンの中みないからここにいていい？』

マチコは坂口の正面に座った。坂口はなにも言わずに閉じていたノートパソコンを開いた。

そしてまたなにやらかたかたとキーボードを叩いてたまに力チツとクリックをする音がした。

その音は何かのリズムのようでその音を聞いているとマチコはなんだかわくわくしてきた。

『メカぐちっ！今度パソコン教えてよ！』

『はっ！？』

マチコの突然の発言に坂口は驚いた。

『メカぐち見てたらパソコンしてみたくなったの！今度買うからさ』

あ
『

マチコはなんだかつきうきしてた。

坂口が返事をする前にマチコはどこかにいってしまっていた。

『メゝカゝぐゝちゝ！』

それから一週間もしないうちにマチコはノートパソコンを学校に持ってきた。

それはもちろん原田さんに買ってもらったものだった。

『パソコンって何が出来るの？』

『インターネットにつなげばいろんな事ができるよ』

そう言いながら坂口は一から十までマチコにパソコンの使い方を教えてくれた。

『私ね、メカぐちみたいにカタカタパソコン打ってみたい』

『あれはタグっていつてホームページとか作るときの暗号みたいなものなんだ。葵さんにはきつとまだ難しいよ』 『えゝ！それがしたくてパソコン買ったのに』

『ははっ』

マチコがあまりにも残念そうにして机にふせるものだから坂口は笑ってしまった。

その時マチコは初めて坂口が笑うのをみた。

『メカぐちって、笑うんだね』 マチコはとても不思議そうに言った。

坂口はそのことに対しては何も言わなかった。

『たくさん打ちたいならブログなんてしてみるのは？』

『ブログって？』

坂口はマチコのパソコンでブログのサイトを開いた。

『こーやって日記とか自分の書きたいことを書いて行くんだ。ホームページだとタグもいるし更新もしなきゃいけないけどブログなら文章を入力して登録するだけで更新できる』

坂口がぺらぺらと説明していくのをマチコはよくわからないままきいていた。

坂口は話をしながらいくつかブログを見せた。

いろんなデザインのブログがあって、それぞれいろんなテーマについて書かれていた。

『メカぐちっ！私、これしたいっ！』

マチコは自分のブログを作ることにした。

3：開設

『あゝ！！そこはピンクがいい！！でも、このデザインは捨てがたいよね！！やっぱりフォントはこれの方がいいから…』

マチコの初めてのブログ開設は結構な時間がかかった。

このデザインとこのデザインを合わせた中間がいいとか、初心者には無理難題なことを言っては出来ないと言い結局坂口にデザインを1から作らせていた。

『マチコさん、考えをまとめて話してよ…』

『だあゝって！！私のブログだよ！！かわいくしなきゃ！！あつ！！プロフィールに写真載せたいつ！！』

『出会い系目当てな人が増えるからやめた方がいいと思うよ。』

『えゝゝでも写真があった方がアイドルみたいでかわいいじゃん！！んゝゝ…』と来い出会い系！！』

超マイペースなマチコに坂口は振り回されていた。

マチコは坂口に次々と指示して満足のいくブログを開設した。結局今日の坂口の休み時間は全てマチコに持って行かれた。

『メカグチ、ありがとう』

出来上がったピンクベースのレース調のブログを見てマチコは満足そうに言った。

ポイントは招き猫のアプリケのイラストらしい。

坂口には理解しがたいセンスだった。

『きゃゝ！！絵文字も打てるなんて画期的！！』

坂口はマチコに記事の投稿の仕方など基本的な使い方を説明したの

だがちゃんと頭に入っているか不安だった。
確認したがマチコは大丈夫だと言ってパソコンを持って去っていった。

坂口の怒涛の1日は終わった。

『うん！！いい出来映え』

家に帰ってマチコは早速パソコンを開き自分の出来たてホヤホヤのブログを満足そうに眺めた。

マチコのハッピーライフ

タイトルは敢えてベタにした。

そして今日坂口に教えてもらった方法を思い出しながら初めての記事を書いた。

はじめまして。マチコです。友達に聞いて初めてのブログを開きました。頑張るからこれからよろしくねっ！！

投稿 をクリックすると初めての記事があげられた。

『やったあ！！』

マチコは両手を顎の下あたりに合わせて喜んだ。

アイドルにでもなったような気分になった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8000a/>

ラブ クリック

2010年10月15日01時55分発行